

平安時代に編纂された『医心方』に記述のある9種類の寄生蠕虫類に関する研究  
○牧 純<sup>1</sup>, 有田 孝太郎<sup>1</sup>, 西岡 茉莉<sup>1</sup>, 藤井 健輔<sup>1</sup>, 山根 さゆこ<sup>1</sup>, 西岡 麗奈<sup>1</sup>,  
関谷 洋志<sup>1</sup>, 玉井 栄治<sup>1</sup>(<sup>1</sup>松山大薬医療薬学科)

[序論・方法]中国で隋の時代(AD610)に完成した『諸病源候論』(Zhu bing yuan lun)をもとに、丹波康頼(AD982)が編纂した『医心方』(Yi xin fang)に記載されている9種類の寄生虫に関する文献上の特定を試みた。

[結果・考察](1)ほぼ確かなもの、(2)ありうると推定されるか又はまったく憶測の域をでないものの2通りが考えられた。それらは一応

(1) 蛔虫(回虫)、蟯虫(ギョウチュウ)、真田虫(サナダムシ) (2) 現在の中国に分布する鉤虫、鞭虫、肝吸虫、肝蛭、肥大吸虫、肺吸虫、日本住血吸虫等をそれらの候補と考えるか、または実際の形態観察によらない、症状などからの想像上の虫種かと推論した。かかる作業仮説をもとに、今後中国における遺跡発掘現場から回収されると期待される寄生虫および虫卵とつき合わる等、中国側と考古寄生虫学的共同研究を徹底する必要がある。